様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　6 月　15 日現在

機関番号：３２６１３
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：２００８～２０１０
課題番号：２０５００５２８
研究課題名（和文）　江戸時代関東農村における剣術流派の存在形態に関する基礎的研究

研究課題名（英文）　An Exploratory Study about the Development of Kenjutsu Schools in Rural Kanto during Edo Era.

研究代表者　数馬　広二（KAZUMA KOJI）
工学院大学　工学部　教授
研究者番号：３０２０４４０７

研究成果の概要（和文）：

本研究は、「江戸時代関東農村における剣術流派の存在形態に関する基礎的な研究」である。

17 世紀初頭に関東（上野国・下総国・上総国・安房国・常陸国・相模国・下野国・武蔵国）に存在した剣術流派は、江戸時代、帰農した中世武士によって農村で武芸が伝承された、と考えられている。この仮説において、①馬庭念流（群馬県）②新当流（茨城県）③新影流（群馬県）④外他流（千葉県）をとりあげ、分布と内容を明らかにすることを目的とし、以下の点が判明した。

1．上野国で馬庭念流を中興した友松氏宗（偽庵）は彦根藩で「未来記念流」を指導した。友松の弟子、永居新五左衛門が、柳生新陰流と未来記念流の２流を併せた「江武知明流正法兵法」を創始しているので、友松が念流を彦根藩と上州農村へそれぞれ伝えた。技法においても「犬之巻」「象之巻」「虎之巻」などの内容が両者で共通する。

2．下総国、常陸国に興った新当流、神道流は 16 世紀に関東の上野国農村にも普及していた。今回調査した新当流文書は岐阜県大垣市立図書館・桜井家文書、山口県防府市毛利博物館蔵文書であった。

3．常陸国の新当流の真壁氏幹（暗夜軒・1550-1622）は真壁城の城主であったとともに鹿島神宮の「鹿島大使」役を務めた。このことから関東農村のみならず関西方面へも鹿島信仰を弘めることも視野に入れ、新当流を普及したことが考えられる。

4．上総国安房国に普及した外他流は、伊藤一刀斎が、1580 年（天正８）頃、外他一刀斎景久と名乗り、南総里見家家臣の宇部壱岐守弘政、石田新兵衛、御子神助四郎、古藤田勘解由などへ指南した。その内容を文書にみると、「五点」「殺人刀、活人剣」「卍」など、一刀流との共通術語が確認される。また、神前儀式や神饌などが記されていた点できわめて中世的な兵法を表していた。また武器絵図には、里見家の水軍が水上戦で用いた武器（熊手、長刀、突く棒、さす又など）も描かれている。

5．近江国堅田（滋賀県大津市堅田）は、外他流を創始した伊藤一刀斎の出身地という説がある。その堅田で居初家は 1100 年続く琵琶湖船頭頭の家。ここで外他流の祖流、冨田流文書（寛永年間）が所蔵されており、堅田水軍と伊藤一刀斎そして関東の里見水軍への伝播へ結びつく可能性もでてきた。

6．幕末期上総国・下総国・安房国など現在の千葉県農村で普及した不二心流開祖・中村一心斎（中村八平）の江戸における動向を伺うことができた。すなわち、関東における農村と江戸の剣術流派をつなげたのは江戸で活動していた剣術家たちであった。

7．江戸幕末期、関東農村にもひろがった、「しない打ち込み試合稽古法」導入の理由の一つとして、外国船の着船によることが、弘前藩文書（文久２年「御自筆の写」）に読み取ることができた。

研究成果の概要（英文）：

The title of this study is " An Exploratory Study about the Development of Kenjutsu Schools in Rural Kanto during　Edo　Era".
In the beginning of 17th century, there were some Kenjutsu schools in Rural Kanto(Kouzuke,Shimousa,Kazusa,Awa,Hitachi,Sagami,Simotsuke,Musashi).
It was hypothesized that Farmer,who were previous Samurai(warrior), succeeded the culture of Kenjutsu school.
Throughout researching Kenjutsu schools; Maniwa-Nen-Ryu(Gunma prefecture),Shinto-Ryu(Ibaraki pref. and Chiba pref.),Shinkage-Ryu(Gunma pref.),Toda-Ryu(Chiba pref.),Toda-Ryu(Kanagawa pref.), the purpose of this study was to examine the development of Kenjutsu schools in rural Kanto during Edo Era.

The summary of the investigation was as follows:

1. Tomomatsu Ujimune(Gian) ,the restorer of Maniwa-Nen-Ryu at Kouzuke, was also the master of Miraiki-Nen-Ryu at the Hikone clan.
2. Shinto-Ryu(Ibaraki pref. and Chiba pref.) pupils existed in Kouzuke(Gunma pref.) in 16th century according to the documents of Sakurai family(Ogaki city public Library) and Mohri family (Mohri Museum).
3. Makabe Ujimoto(Anyaken 1550-1622) who was the lord of the Makabe castle, also worked at Kashima Jingu Shrine. So, he expanded Shinto-Ryu to Kouzuke District not only Kenjutsu school,but also the belieaf of Kashima Jingu Shurine.
4. Ito Ittosai spreaded his way of military arts to Kazusa and Awa(Chiba pref.) called "Toda school" aroud 1580. His pupils were feudatories of Satomi family,Ube Ikinokami,Ishida Shinbei,Mikogami Sukeshiro,Kotoda Kageyu.
   We can see the same terms between Itto-Ryu and Toda Ryu, for example,"Goten,Setsuninto,Katsuninken,Manji"etc. because Itto-Ryu was derived from Toda-Ryu.
   In addition, we can see the picture of alter when master initiated the secret of schools and the pictures of weapon of the fleet(pirates)(ex.Kumade,Tsukubou,Sasumata)
5. Nakamura Isshinsai(founder of Fuji-Shin-Ryu Kenjutsu school) practiced with another school's pupils (Ohira-Shinkyo-Ryu) at Edo. He walked around the rural district(Kazusa ,Shimohusa and Awa)to spread his school. He contributed to the development of Kenjutsu schools between rural and Edo.
6. The external pressure from foreign countries in the end of 18th centuries to Tokugawa shogunate is one reason why shinai and protecter(men,kote,do) were started to use and spread in the schools in Kanto Rural.
7. Farmer　who were Bushi warrior at 16th century continued the culture of Kenjutsu school.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２００９年度	700,000	210,000	910,000
２０１０年度	700,000	210,000	910,000
総　計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・身体教育学

キーワード：武道論

１．研究開始当初の背景

今研究は、①農村における剣術流派を内部から支えたのは、一部有力門人の経済力・政治的力量であった。②流派の広告・宣伝活動のために、宗家は神社奉納額活動を行った。③宗家は高弟に目録発行権を認め、できるだけ多くの門人獲得を企図した。④江戸道場の経営成功がさらに農村での剣術流派を拡大・普及するきっかけとなった。⑤寛政年間の江戸幕府による武芸奨励政策が農村に住む士分に浸透し、農村での武芸普及につながった。⑥幕末期、農民の打ち壊し対応として、名主層が自衛目的で武芸教習を必要とした。⑦江戸の商品経済が農村へ流入したことは、人物往来が増え、剣術流派の伝播が自然になされた。⑧帰農した中世武士によって、江戸時代の農村に武芸が伝承された。等の仮説を持っている。更に流派運営に関する書簡から、剣術流派経営に対する宗家の姿勢、他諸流派同士の勢力関係などを明らかにし、江戸とのつながりにおける関東農村における武術流派運営の実態を明らかにすることを目的とする。

江戸時代、関東の農村で剣術流派が普及した一例に馬庭念流（群馬県高崎市吉井町馬庭）がある。群馬県一円に門人を獲得し、免許制度を確立した馬庭念流は、17 世紀初頭から入門起請文がある（樋口家文書）。

平成７年以来、馬庭念流を中心に研究者が調査しているが、これまでも多くのことが明らかになってきた。

今回、江戸時代の農民階層が、農村において武を修練した中世武士の足跡をたどる。

２．研究の目的

本研究期間（平成 20 年度～22 年度）においては、江戸時代初期に関東農村で剣術流派が興起するに至った経緯、および他地域からの伝播の経緯を調査することを目的とした。

３．研究の方法

対象流派は１７世紀初頭に関東（上野国・下総国・上総国・安房国・常陸国・相模国・下野国・武蔵国）に存在した剣術流派のうち①馬庭念流（群馬県）②新当流（茨城県）③新影流（群馬県）④外他流（千葉県）⑤冨田流（神奈川県）をとりあげ、分布および中世農民との関係を明らかにすることを目的とした。

４．研究成果

（１）上野国における剣術流派

①馬庭念流：１６世紀末、上野国に広がった馬庭念流の中興の師、友松氏宗（偽庵）は彦根藩で「未来記念流」を指導した。友松の弟子、永居新五左衛門が、柳生新陰流と未来記念流の２流を併せた「江武知明流正法兵法剣術之書」を複写した。（延宝２年（１６７４）すなわち念流は、友松が彦根と上州へ伝えたことがわかった。また友松氏宗が上野国馬庭に念流剣術を普及する前後に彦根藩士であったことから、彦根城博物館蔵に①「友松氏宗供養歌写」②「兵法書写」の自筆を確認した。

②新影流：17 世紀、関東に流行った新影流は、群馬県の上泉伊勢守秀綱によってもたらされた。伊勢・志摩地域の出身とされる愛洲移香斎（1452-1538）がいかなる経緯で上泉伊勢守に伝えたのかについて調査した。三重県南伊勢町五カ所浦の「愛洲の館資料館」には、秋田県立文書館蔵：平沢家文書の複製 5 点、および水軍関係資料がある。中世・田曽浦の警護役であった北浦家文書（天正 4 年 7 月 3 日鶴松書状）が残り、水軍と影流との関わりの可能性を求めた。

③神道一心流：流祖・櫛淵宜根の文書が群馬県立文書館にあり、沼田付近で行われていたことを示す門人帳を確認できた。

（２）常陸国・下総国における新当流の普及と鹿島信仰について

①新当流：近世初頭の剣術流派について、友松偽庵から 1591 年に念流を伝授されるまで、馬庭念流の樋口家は馬庭村で新当流（松本備前守一柏原肥前守系）を指導していた。16 世紀の関東では、新当流が普及していたと考えられる。

新当流について、１）下総国香取郡の天真正伝香取神道流宗家の飯篠快定氏文書（千葉県香取郡香取町）、香取神社社地内の石碑および金石文を調査した。

また２）常陸国真壁郡桜井（現茨城県桜川市真壁町桜井）に住居した桜井大隅守吉勝は、常陸国の真壁城主・真壁安芸守氏幹(1550-1622)の家臣で新当流を修めた。岐阜県大垣市立図書館に寄贈文書された新当流文書（桜井大隈守吉勝や桜井助之丞文書など）を調査した。

３）長州藩毛利家（山口県防府市・塚原卜傳系新当流）の文書を調査した。

②鹿島信仰

新当流の真壁氏幹（暗夜軒・1550-1622）は真壁城の城主であったとともに鹿島神宮の「鹿島大使」役を務めた。このことから鹿島信仰を弘めることも視野に入れ新当流を普及したことも考えられる。門弟桜井大炊助（吉勝）が「西へいった」理由に鹿島信仰布

教があったかもしれない。これらの成果の一部を平成21年8月、第40回日本武道学会（於:大阪大学）で口頭発表した。

（３）安房国・上総国における外他流

伊藤一刀斎は、天正８年頃には外他一刀斎景久と名乗っており、南総里見家へ出向き、宇部壱岐守弘政（北郡吉浜村）、石田新兵衛、高禄の御子神氏（十人衆頭としての御子神大蔵や百人衆の一人としての御子神庄蔵で御子神助四郎の一家）、「足軽小頭」の古藤田勘解由（丸郡小戸村・百石・足軽小頭）へ外他流の指南を行った。今回調査では、「五点」「殺人刀、活人剣」「卍」など、一刀流の源流として位置づけるに十分の共通術語が文書中に確認される。また、神前儀式や神饌などが記されていた点できわめて中世的な兵法を表していた。

また、石田家文書および実方家文書にみる武器絵図は、里見家の水軍が水上戦で用いた武器（熊手、長刀、突く棒、さす又など）でもあった。

近江国堅田（滋賀県大津市堅田）は、外他流を創始した伊藤一刀齋の出身地という説がある。その堅田で居初（いそめ）寅雄家は1100年続く琵琶湖船頭頭の家。ここで外他流の祖流、冨田流文書（寛永年間）が所蔵されており、堅田水軍と総合武芸、伊藤一刀斎そして関東への伝播についてのラインが結びつく可能性がでてきた。

成果の一部を「外他流の関東伝播に関する一研究－御子神氏を中心として－」として，平成20年８月に 日本武道学会第41回大会（慶應義塾大学）で口頭発表した。

（４）武蔵国

①江戸における農村部剣術者の動向

幕末期、豊後国岡藩の江戸屋敷（中川邸）で北辰一刀流、直心影流、鏡心明智流が（年不明５月 13 日）他流試合を行った記録（山口県立図書館蔵）に、安房国農村で北辰一刀流の山田官司の名が記されている。この文書から江戸市中の有力流派同士の試合が行われていたことと、関東における農民が江戸へ往来するとき、剣術という手段を介した事例が明らかになった。

②江戸植溜の上覧絵図について

山口県立図書館には、江戸で武芸流派の上覧が行われた場所である植溜絵図（二通）を撮影。

③大平真鏡流の江戸道場と不二心流中村一心斎の動向

下野国出身の若菜真鏡斎（1727～1819）が創始した大平真鏡流の江戸道場における文化・文政期の剣術家の交流の様子を能勢尚貞文書（文化14年８月１日『剣術稽古出席帳』（平成22年度・購入文書）にみることができた。この中に、幕末期上総国・下総国・安房国など現在の千葉県農村で普及した不二心流開祖・中村一心斎（中村八平）の江戸における動向を伺うことができた。

（５）陸奥国：しない打ち込み試合剣術流行の背景について

幕末期に関東でしない打ち込み試合剣術が流行した理由を海外船の来航ととらえ、陸奥国弘前藩での対応を調査した。弘前藩では、一刀流関係文書・当田流関係文書・弘前藩藩校における武術入門の起請文など 45 点の撮影調査。文久２年「御自筆の写」（家中の面々流儀にかかわらず面試合稽古致し候様申しつけ）により、幕末の弘前藩において形稽古からしない打ち込み試合稽古に移行した理由が、北方に着船していた外圧であることがわかった。

（６）周防国：水軍と武術流派の関係性の浮き彫り

周防国毛利家における剣術流派の文書調査を行った。毛利博物館（山口県防府市）所蔵文書の調査を通して、１５世紀に水軍であった白井入道利才文書①1486年（文明８）の武芸文書（海田四郎に宛てた文書。題なし）および②1500年（明応９）「剣十五ヶ条誡（いましめ）」（毛利興元宛）などの文書の存在は、武術流派と水軍との関係を示唆するものと考えられる。

（７）今後の展望

今回、中世の武と剣術流派を結んだ軍備として水軍の武芸伝書を確認することが出来た。毛利博物館および滋賀県大津市堅田・居初家資料から水軍の武に関する資料を整理し、関東で弘まった剣術流派との関連を明確にすることが、関東における農村における武芸の伝播を明らかにされることにつながると考える。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　３件）

① 数馬広二「近世剣術流派における免許制度について」，『教員資質論・教員資格制度論研究４』p.p.45-55　，免許法研究会，2011年３月，査読無

② 数馬広二「ブラジル、米国における剣術流派の普及についての基礎的研究－ブラジル移民による剣術流派の普及－」工学院大学総合研究所年報、17 号　p196 2010年６月，査読無

③ 数馬広二「北関東における剣術流派の伝

播に関する研究－上野国甘楽郡における馬庭念流について－」，『工学院大学共通課程研究論叢』，第 46－1 号 p.p.127-107 2008 年 10 月 31 日発行、査読無

〔学会発表〕（計　２件）

① 数馬広二、「新当流の伝播に関する研究ー桜井氏を中心として」、日本武道学会第 42 回大会（大阪大学）『武道学研究』（日本武道学会誌）42 巻別冊 p54（2009）、査読無

② 数馬広二，「外他流の関東伝播に関する一研究－御子神氏を中心として－」，日本武道学会第 41 回大会（慶應義塾大学），『武道学研究』（日本武道学会誌）41 巻別冊,p13,2008 年 8 月 29 日、査読無

〔図書〕（計　２件）

① 数馬広二　『教育剣道を受け継ぐ人々ー東京教育大学、筑波大学篇ー』（島津書房）p.p.105-111 ,2009.8.31,発行

② 数馬広二　『剣道を知る事典』（東京堂出版）「大学生の剣道」「剣道と信仰」「剣道と流派」 p.p.156-157, p.p.180-181, p.p.188-189,2009.5.10 発行

〔その他〕

○講演など（計　４件）

① 数馬広二「八王子・小仏関所における武」（八王子学園都市大学いちょう塾「八王子学－歴史と環境－」2010 年 12 月 9 日 於：東京都八王子市学園都市センター）

② 数馬広二「里見水軍と一刀流」館山市中央公民館ふるさと講座（2010 年 10 月 9 日　於：千葉県館山市中央公民館）

③ 数馬広二「八王子における「武」－千人同心・塩野適斎の功績」（八王子学園都市大学いちょう塾「工学院大学発・八王子学－過去をみつめ、未来をひらく－」2009 年 11 月 13 日　於：東京都八王子市学園都市センター）

④ 数馬広二「八王子千人同心の剣術」（八王子学園都市大学いちょう塾「八王子学－歴史と未来－」第３回 2008 年 10 月 10 日　於：東京都八王子市学園都市センター）

○海外における講演（計　１件）

① Koji KAZUMA 「Historia do KENDO」(2009 年 9 月 2 日　於：SaoPaulo ,Brasil・ブラジル国サンパウロ州サンパウロ市・国際交流基金サンパウロ日本文化センター)

６．研究組織（1 名）

(1)研究代表者：　数馬広二（KAZUMA　KOJI）
工学院大学・工学部・教養・基礎教育部門・教授・研究者番号：３０２０４４０７